

## VI 点検・評価の結果の見方

### 1 5年間（平成28年度～令和2年度）の総括の見方

#### ■基本施策（3）発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

施策の内容	幼児の生活や発達をふまえ、幼児期の学びの芽生えから児童期の自覚的な学びへの円滑な接続が図られるよう、幼児教育の充実を図る事業に取り組む。
取組内容	ワクワクひろば事業や保幼小合同研修会の実施等、幼小連携を推進して、また「幼児教育界スタンダードカリキュラム」を改定し、その普及・啓発に取り組んで、特に特別な支援を必要とする子どもに対する早期からの支援も継続して実施してきた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクワクひろば事業の実施も定着し、保幼小合同研修会に教員が参加した小学校が、この5年間で確実に増え、令和元年度においては98.9%にのぼった。</li> <li>・「堺市幼児教育基本方針」を改定し、幼児教育推進のための基本的方向性ができた。</li> <li>・幼児教育・保育施設に対する研修や助言・相談業務、研究実践の推進と家庭教育や子育て支援を含め幼児教育に関する情報提供等を中核的に多様な機能構築した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な幼小接続については、子どもや教職員の交流等にとどまらず、子どもの姿をもとにした教育内容等の連携や評価につなげていくことが課題である。</li> <li>・幼児教育センター機能の充実を図り、保育者のさらなる資質・専門性の向上や子どもの発達と学びの連続性をふまえた施設間の連携や相互理解を着実に推進していく必要がある。</li> </ul>

基本施策ごとに、施策の内容並びに5年間の取組内容、成果及び課題を記載。

#### ◆成果指標 ※網掛け部分はプラン掲載の指標

成果指標	対象	③現状値 (H26)	②目標値 (R2)	①実績値 (R1)	①実績値 (R2)	達成度 (①/②)	伸び率 (①/③-1)
				98.9%			
				校中 1校 37回			

「令和2年度実績値（令和2年度実績値がない場合は、令和元年度実績値）÷令和2年度目標値」の計算式により算出。

「令和2年度実績値（令和2年度実績値がない場合は、令和元年度実績値）÷平成26年度現状値-1」の計算式により算出。

### 2 令和2年度の結果の見方

#### ■基本施策（3）発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

##### ◆施策の内容

幼児の生活や発達をふまえ、幼児期の学びの芽生えから児童期の自覚的な学びへの円滑な接続が図られるよう、幼児教育の充実を図る事業に取り組む。

##### ◆取組内容

- ・「園内研修支援事業」や「幼児教育実践交流セミナー」を新型コロナウイルス感染症対策として、面開催も取り入れながら継続実施した。
- ・教育センター内に幼児教育センター機能を構築し、幼小連携や要配慮児に対する支援等を行った研修の実施や施設に対して助言・相談等を行った。

##### ◆成果

- ・幼児教育のアドバイザー等の助言や相談を自園で受けることができる「園内研修支援事業」ナ禍において有効な支援だった。
- ・対面での交流活動がメインとなる保幼小合同研修は中止としたが、子ども青少年局との連携のもと、公民園種を問わずキャリアに応じた研修等、感染症対策を講じたうえで実施することができた。

##### ◆課題

- ・園内研修支援では、研究保育等、より具体的な場面での実践的な助言をすることができたが、各園の教育活動や研修体制の充実に向け、新規申請園の開拓や研修メニューの拡大が必要である。

##### ◆今後の方向性

- ・幼児教育センター機能の充実・強化を図り、公民園種を問わず、すべての幼児に対する質の高い幼児教育を推進する。
- ・各園の教育内容等の充実に向け、モデルとなる公立園の研究実践機能を強化し、成果を発信していく。
- ・子どもの発達と学びの連続性をふまえた、より円滑な小学校教育への接続を図り、好事例の蓄積・発信やスタートカリキュラムの編成・評価改善を推進していく。

基本施策ごとに、施策の内容並びに令和2年度の取組内容、成果及び課題を記載。

◆事業評価

(3) - ① 幼児教育推進事業		能力開発課
事業概要	幼児の生活や発達を促すよう、幼児期の学びの芽生えから児童期の自覚的な学びへの円滑な接続を図られるよう、幼児教育の充実を図る事業に取り組む。	
R1 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼小の円滑な接続にスタートカリキュラムの意義や有効な取組などの啓発が必要。</li> <li>「園内研修支援事業」「実践交流セミナー」について、参加者からの評価が高く、自園の教育活動の改善の意見もあった。今後はこれらの事業の活用を促進し、有効な取組を実施する。</li> <li>幼児教育センター機能の構築が求められる。</li> </ul>	
R2 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修実践交流セミナー</li> <li>令和2年度園内研修支援事業</li> <li>幼児の発達を促す取組</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育のアドバイザー等の助言や相談を自園で受けることができる「園内研修支援事業」は、コロナ禍において有効な支援だった。</li> <li>コロナ禍において、対面での交流活動がメインとなる保幼小合同研修は中止としたが、子ども青少年局との連携のもと、公民園種を問わずキャリアに応じた研修等、感染症対策を講じたうえで実施することができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修支援では、研究保育等、より具体的な場面での実践的な助言をすることができたが、各園の教育活動や研修体制の充実に向け、新規申請園の開拓や研修メニューの拡大が必要。</li> </ul>	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育センター機能の充実・強化を図り、公民園種を問わず、すべての幼児に対する質の高い幼児教育を推進する。</li> <li>各園の教育内容等の充実に向け、モデルとなる公立園の研究実践機能を強化し、成果を発信していく。</li> <li>子どもの発達と学びの連続性をふまえた、より円滑な小学校教育への接続を図り、好事例の蓄積・発信やスタートカリキュラムの編成・評価改善を推進していく。</li> </ul>	

基本施策に基づく事業ごとに、事業概要、令和元年度の課題、令和2年度の実績、取組内容、成果、課題、今後の方向性を記載。

5年間の総括					
成果指標	対象	現状値 (H26)	目標値 (R2)	実績値 (R2) ※	傾向
保幼小合同研修会に教員が参加した小学校の割合	-	14% (13校)	100%	98.9%	↑
ワクワク保育実践交流セミナー開催回数		延べ220回	延べ300回	延べ187回	↓
取組内容	基本施策に基づく事業ごとに、5年間の取組内容、成果及び課題を記載。				
成果	令和2年度実績値における、平成26年度現状値からの上昇/下降の傾向を記載。				
課題	令和2年度実績値における、平成26年度現状値からの上昇/下降の傾向を記載。				